

研究テーマ 自己教育力を育む教育～原点回帰「ひとりで学ぶ」授業づくり～

アドバイザー 岡山大学教師教育開発センター 高旗 浩志 教授

平成28年度 河北中学校第1回授業研究会

期日 平成28年5月24日(火)

1. 公開授業(10:40～12:20) 3・4限 全クラス

ホワイトボードに提示してある内容が、目標なのかねらいなのかを明確にして提示する必要がある。また「自力解決の時間」について、自力解決の場面が設定されていない授業もあり、「自力解決の時間」はどのようなものかを、今後研究の中で提案していく必要がある。多くの授業が「河北中めざす授業」にそって展開されており、自分で考える時間や小集団で考える時間が設定してあり、今後につながる公開授業であった。

2. 研究授業(13:50～14:40) 3年理科、数学

【授業参観の視点】

- ①生徒の興味・関心を引きつけ、追求したくなるような「課題設定」であったか
- ②序盤に「自分の考え」をもつ時間が確保されていたか。
- ③「小集団活動」は意図のあるものであったか。
- ④「自力解決」の時間は設定されていたか。

【研究授業について】

〈3年理科〉「遺伝の規則性と遺伝子」

実物教材を使った導入で興味関心を引きつけ、その後の小集団活動いたる指示も明確であった。トウモロコシを使って遺伝の規則性を発見する小集団活動は、他の理科教員も驚く新しい手法であり、参観者の興味関心も十分引きつけていた。自力解決のために、専門用語で説明する力を育成していくという課題も見つかった。

〈3年数学〉「平方根」

平方根でなければ表現できない理由を迫っていく課題に生徒が没頭していた。ペア・グループ・全体と学習形態が的確に設定してあった。生徒が「分からない」と素直に言えるクラスの雰囲気があり、教え合いが自然に行われていた。 $\sqrt{\quad}$ の数字を追っていく課題では我先にと生徒が課題を追究していく姿が印象的だったが、分からない生徒がおいて行かれていないかに目を配っていく必要があった。

3. 授業研究会（15:00～16:50） 全教職員

〈授業改善に活かしていきたいこと〉～協議より～

- ・指示の明確化（簡潔・明瞭に）
- ・ゴールイメージ。「この授業で何を身につけさせたいか」「何が分かるようになってほしいか」を明確にする。
- ・普段の授業が型にはまってきていることが分かった。研究授業を参考に、生徒が夢中になる授業をしたい。
- ・「個の自力解決の時間」をしっかりと確保したい。そのために小集団活動を仕組みたい。
- ・「分からない」が言える学級集団をつくりたい。
- ・過度な配慮や準備をするのではなく、「程よい不親切」を意識したい。小集団を参考にしながらも自力で解決する場面を仕組んでいきたい。

〈アドバイザーの指導助言〉岡山大学教授 高旗浩志教授

①「河北中めざす授業」をさらに進化させるために必要なこと

- ・追究する値打ちのある課題設定
- ・「自分の考え」をもつ時間の確保
- ・小集団活動はことさら活発で活動的である必要はない。「自分の考え」が交流できればよい。
- ・「理解したこと」「新たに疑問に感じたこと」を確かなものにする「自力解決の時間」を設定すること。

②日々の授業で大切にしてほしいこと

- ・安心して課題を追究し熱中する雰囲気。これが本当の学習規律。
- ・協同学習を進めるためには、人間関係の円滑さが重要。課題追究型の人間関係でなければならない。
- ・小集団活動の前に個の「自力解決の時間」を必ず取ること。これを議論する場が小集団活動。
- ・分かったことを説明するのではなく、「何が分からないか説明できる人？」という発問を試してみる。分からないことが分かることが授業の価値。
- ・今日習ったことを復習する宿題ではなく、新たな疑問を書くような宿題を出してみてもどうか。

4. まとめ

第1回の授業研究会を通して、この1年間でどのような授業改善に取り組んでいくのか共通理解できた。①興味・関心を引きつける導入、②追究する値打ちのある課題設定、③自分の考えを議論し合う小集団活動、④他者の意見をもとに再度自分の考えを深める自力解決の時間、を今後実践していくことを全教職員で確認した。